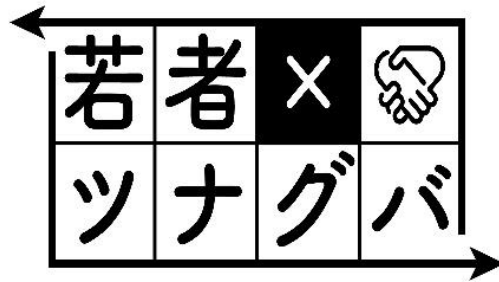


2019年度 若者×ツナグバ 事業報告



2020年4月

特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう
特定非営利活動法人 三次おやこ劇場
府中町地域活動青年団体 志楽蝶
公益財団法人 マツダ財団

2019年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名 : NPO法人ほしはら山のがっこう

報告者 : 浦田 愛

活動の内容

1. 三次市「若者×ツナグバ」月一回イベント開催

●日時 毎月第4土曜日 13時～16時

①4月27日 ②5月25日 ③6月22日 ④7月27日 ⑤8月24日 ⑥9月28日 ⑦10月26日 ⑧11月23日 ⑨12月28日※ ⑩1月25日 ⑪2月22日 ⑫3月28日※

※12月はインフルエンザ流行中の為、イベント中止

※3月は新型コロナウイルス流行で三次市からの指導によってイベントは中止とし、中高生～若者スタッフとボードゲーム研修会を実施

●場所 三次CCプラザセントラルコート

●指導 一般社団法人ひろしま森のおもちゃ協会(ボードゲーム) 毎回2名

●目的

①放課後や休日を過ごす、学校や職場・家ではない「サードプレイス」を設置し、つながりの場をひらくことで、所属している場所での評価とは違う「一人称」の個人同士が出会えるきっかけを作る。

②「サードプレイス」を運営する10～20代スタッフを募集・サポートし、若者による若者のための「ツナグバ」づくりを行う。

③これらの活動によって、一人で抱えている悩みを聞き合い、対話によって支え合える仲間を得、新たな希望にめぐり合える若者を増やす。

●参加人数 参加者延べ 300名(約30名×10回) 若者スタッフ延べ 60名

サポートスタッフ1名 指導団体2名

●内容

①中高生～20代向けカフェイベントの開催

・フリースペース cafe の開設 ・テーマトークライブの実施 ・ボードゲーム体験(交流)コーナーの開設

②アンケートの実施(別紙:集計結果)

③10～20代スタッフのサポート



2. 若者スタッフによるイベント開催



●日時 2019年9月22日・23日(2日間)

森のおもちゃフェスタ(主催:森のおもちゃフェスタ実行委員会)内「ボドゲコーナー」

●場所 ほしはら山のがっこう



●目的 若者によるツナグバづくりのサポートを行う。またツナグバの必要性について、社会の認識を広げる。

●参加人数 1日約100名×2日間＝約200名 若者スタッフ延べ6名

●内容 若者スタッフがボードゲームコーナーの交流スペースを運営する

3. 若者スタッフによるキャンプ開催

●日時 2019年12月31日～2020年1月1日(一泊二日間)

●場所 ほしはら山のがっこう

●目的 若者によるツナグバづくりのサポートを行う。学校でも職場でもない、つながりの場。

●参加人数 キャンプ参加者17名 若者スタッフ8名 サポートスタッフ8名



親子で参加できる
大人向けのボードゲーム
本日も親子で参加できる
(19年12月31日)

年10チャレンジキャンプ

in ほしはら山のがっこう

みんなで、2020年もやろう！
中高生～20代スタッフ企画★

12.31 13:00
～1.1 10:00

参加費
・日帰り 1,000円
・お泊り 2,500円

主な予定
1日目 ①お泊り体験
②ボードゲーム・除夜の鐘
2日目 朝ごはん

主 催 NPO法人ほしはら山のがっこう
ホシハラ山がっこう
企画実行 ほしはら山(中高生～20代ユース)
助 成 公益財団法人マツダ財団
「若者×ツナグバ」

申し込み 連絡先
TEL 0824-69-2888
MAIL hoshihara@tacomc.net

良かった点および課題、今後の方向性

良かった点

- ・三次市内に若者がつながる場を、若者によってつくる1年にチャレンジできた。この若者×ツナグバづくりのなかで起きたエピソードを次に記録する。
- ・また、三次市ならではのツナグバの役割を発見することができた。気づきの詳細を記録する。

【エピソード記録】

①若者スタッフのエピソード

- ・高校生女性・・・スタッフ募集チラシを見て電話。企画など自分に出来ることの幅を広げたいが、社会とつながった形で実現できる場はこれまで学校以外になかった。学力とは関係なく、別の頭を使って気分転換になる。いろんな提案をしていきたい。(若者スタッフとしてチャレンジし始める)
- ・10代男性・・・長期不登校を経験している。スタッフとして社会に貢献できる場所がこれまでなかなかなかった。ボードゲームの説明など、チャレンジするうちに慣れ、上手になり、自信が出来た。同年代のスタッフや、ボードゲームに来た同年代の人とも、ゲームを通じて一緒に笑ったり楽しんだりできる時間が持て、やりがいを感じ始めている。
- ・10代男性・・・学校の友人関係で悩んでいる。ここに来ると役立ち感を感じることができる。友だちとも会え、自分でいられる。

・10代女性・・・2年間不登校。学校には居場所を感じなかったが、この仲間とは不登校を意識せずに、一緒にスタッフとして時間を作れるし、やりがいがある。どのように利用者に声掛けをしたらよいか、場づくりではどのような心配りが必要かなど、勉強したい。



・10代女性・・・コミュニケーションに苦手意識がある。ボードゲームの説明などが苦手でスタッフとして役立てていない気がしている。だけど友だちに会えるのは嬉しいので来ている。

・10代男性・・・ボードゲームに詳しくなりたい。頭の中がボードゲームでいっぱい。みんなに紹介したいボードゲームを見つけたい。説明もうまくなりたい。自分でもボードゲームを作って紹介したい。

②利用者のエピソード

・20代男性・・・進路を迷っているが、気楽な話し相手がいなかった。ふらっと来て、スタッフに誘われ、話ができた。ボードゲームもやってみると面白かった。友だちもできるし、ちょくちょく来てみたい。(よく来られるようになる)

・20代男性・・・ふらっと寄れて、新たな友だちが作れる場所がなかった。ボードゲームは好きで、よくやっているし持っているが、こういった場所がなかなかなかった。閉じられた場所ではよくあるけれど、出会うことができるのは

よい(よく来られるようになる)

・30代男性、40代男性・・・(ボードゲームに関わらず)いつもここに来ている。ここに来ると会える人がいる。(よく話しかけられるようになる。)

・60代男性・・・(コーヒーを運ぶ便利グッズを手づくりし、寄付くださった。継続するうちにコミュニティが出来ていくことを感じる瞬間だった)

・10代男性と両親・・・子どもが不登校。親が、ツナグイベントの情報をどこからか聞き、来られた。家族とスタッフでゲームをし、家族同士大声で笑ってゲームを楽しんだ。ご両親は、不登校経験のある若者スタッフが生き生きとしている様子を見て、安心される。また母親からは、不登校の子どもの居場所についての情報を得られないとの相談を受け、いくつかの機関について情報を伝えると、どれもご存知なく、「どのように皆さんその情報を得られるのか」とのこと。家族内でもって悩みを抱えており、ネット検索をしても行き当たらない情報について、ツナグバを通じて人と人のコミュニケーションの中で、新しい情報を得られた様子だった。しかし、不登校児を抱えていることについて社会に対する引け目を感じている様子が気になった。その後が気がかり。

【三次市ならではのツナグバの役割】

・会場設定について／若者ツナグイベントの会場は、三次市内のショッピングモールの休憩スペースに設置し、垣根を下げ、遠回りに眺めることもできるような場づくりを行った。

・入りやすさをデザインする／イベントブースへの入りやすさにはまだ課題もあり、様々なアイデアを試行中である。(のぼり旗の設置、若者スタッフの声掛け(誘う)、音楽をかけるなど)

・**新たなつながり感へのアプローチ／アンケート**では「通りがかり」の参加者の数が多く、そんな中でも、悩み事や社会への不安感などの声を聞き取ることが何度もあり、この会場の設定デザインや工夫がツナグバとしての機能に果たす重要性を感じた。

・**多様な方が混ざりつながるフラットな場**／高齢者、障害のある方、多様な事情を抱えた若者、夜の仕事をされている方などなど、様々な方がこのツナグバに混在していて、一緒にゲームをしたり、話をしたり、ゲームをのぞきこんで勝敗を応援したりする姿があった。



・**なぜ多様な方が混ざり合う場が実現したのか**／この場所に元々居場所を求めて来られている方があり、そこに若者向けのイベントによって若者世代が入れ込まれた状況が生まれたのだと思われる。

・**なぜフラットな場が機能していたのか**／そこには固定的な価値観や評価などによるグルーピングや垣根は感じず、フラットで心地の良い場が開かれていた。

このショッピングモールの休憩スペースは、「だれでも」「無料で」居られる。しかしお互いに距離を取り合い、干渉し合わず、交流は生まれにくい場所である。

ところが三次市という土地柄であるからなのか、他の土地でもそうであるのか、「ここに来ると会える人」同士のコミュニティがあったことに、何度も行くうちに気づかされ、驚かされた。



そこにボードゲームを投入することで、若者も交えたフラットな関係づくりがはじまった。「ボードゲームのルール」がまたほどよい関係づくりを促していたと思われる。

しかし私たちのイベント自身が、この場に元々あったゆるやかなコミュニティに受け入れられていたことに気づかされたのは、ほぼ一年経った時だった。

・**ツナグバにおける、ゆるやかな相談、つぶやきの聞き取り**／そういったフラットな場で時折、相談のような、つぶやきのような声を聞き取ることがある。ここが相談窓口としての看板でなく、ツナグバという看板であることで、相談以前の自分事の整理や、人とのつながりによる勇気づけを持ち帰れる場として機能したのではないかと感じる。

・**若者スタッフ同士のつながりと成長**／若者スタッフ一人一人については、このツナグバイベント企画運営へのチャレンジを通してお互いに支え合える仲間づくりをしていく姿があり、また社会とつながった活動を経験して成長する姿が見られた。

課題

・**ツナグバの相談機能の課題**／相談窓口につなぐべき緊急度の高い件については、すぐに相談先を紹介できる仕組みが課題である。

・**若者スタッフの課題**／「もっと大きなところでもツナグバイベントがやってみたい」「中学校や高校の中でやってみたい」といった声がある一方で、「スタッフとしてしか来られない場所になると、行きづらい日がある。緊張が続くストレスが高い毎日の中で、自分も利用者として行けてほっとできる日も欲しい。」「役立てていない気がして、心苦しい。」などの声もあり、今後の活動の仕組みづくりに声を反映させたい。

・**財源、人的物的資源の課題**／このツナグバはボランティアな精神に支えられている。無料で提供くださる会場、ボランティアで関わる若者、つながっていく人々の寄付品などのおかげで、人と人のつながりの感じられるあたたかな場をつくることができた。活動を継続させ続けるには、ひきつづき社会の理解とご支援による人的物的資源づくり、またなんらかの財源づくりが課題である。ツナグバは福祉的な面が大きく、多様な方が混ざれるフラットな場ならではの「つながりから始まる可能性」を実現するには、無料で場をひらけることが必須条件と思われる。今後も継続的に場を提供していくための策を研究していく。

今後の方向性

マツダ財団の支援をいただきながら、三次市の若者×ツナグバについて実験的に活動を行った三年間の成果として、「若者スタッフ」グループが誕生した。

この若者たちの活動をサポートし続け、継続発展させていく。

月一回ではあるが、若者ツナグイベントを来年度も継続する。つづける中でつながっていくコミュニティ、そこでおきる「ゆるやかな相談、つぶやきの聞き取り」、人と人のつながりによって自ら希望を見出していく人々のものがたりを支援サポートする。

若者による若者ツナグバを継続させていくための経営方法について、持続可能でかつ場の役割を果たせる仕組みの最適解を探り続け、トライしていく。

三次市市政にも引き続き働きかけ、若者の居場所、ツナグバの必要性に対する市民や市政の関心を高める。

3年間を振り返って

実施に伴う効果

1年目は、若者が社会に希望を見いだせる場の機能のなかで、ほしはら山のがっこうが果たせる役割として、「若者の自然離れ・地域離れ・対話コミュニケーション離れ」という社会課題へのアプローチを想定し、「大人の自然学校」企画運営を行った。

ところが対象である10～20代の若者の参加数が定員になかなか満たず、特に宿泊イベントの参加が大変少なかった。若者層の「忙しさ」の理由として、アルバイト(携帯電話維持費などを稼ぐ)や家でひとりで過ごすゲームの時間やSNS・YOUTUBEを眺めている時間の優先度の高さを聞き取った。それらの魅力に増す、「若者×ツナグバ」「大人の自然学校」の発信を行うことができなかった。またはツナガリをつくりだすきっかけが不足していた。

一方で、「焚き火」が持つ魅力として、「対話をひきだす場づくり」への効果を参加者同士が共有することができ、参加者自身が焚き火イベント企画運営を行った。

2年目は、1年目に課題となった若者世代、特に三次市在住の若者の参加者募集について、探るところからスタートした。ツナガリをつくりだすきっかけとして、青少年の日常の過ごし方を聞き取ることにした。

三次市の中学生・高校生～若者に居場所について聞き取る中で、放課後や休日は、学校のクラブ活動や塾を居場所としていることがわかった。その他ではショッピングセンター、ファミレス、ファーストフード店、図書館、居酒屋が挙げられた。

一方、ほしはら山のがっこうで現在活動している体験スタッフは、10～20代の頃に、公的な、またはYMCAなどの青少年活動支援団体のサポートを受けた活動経験のあるメンバーが多い。彼らのなかには、野外活動だけでなく、演劇、音楽などもセンター機能のサポートを受けながら自主活動していた人もあり、その仲間とのつながりは、大人になってからも続いている人が多い。社会活動でもその経験やつながりを生かし、また、ボランティア活動のなかで今度は自分が青少年をサポートしている。しかし、三次市には専門的な職員の常駐する青少年センターがない。

この地域に、若者世代の新たなツナガリを生む場、ツナガリのハブとなる場、そのサポート機能が必要なのではないかと考察した。

そこで、三次市内の青少年に関わる団体に呼びかけ、共に三次市長や三次市教育委員会と青少年・若者の居場所づくりについて対話する時間をいただき、専門的な職員が常駐するセンター施設の常設を要望した。

また、それらの団体と共に、三次市「若者×ツナグバ」イベントを開催し、ユース世代サポートの先駆的な活動を展開されているNPO法人カタリバさんから講師を招いてトークイベントを開催した。トークの聞き手は、三次市へUターンした若者がつとめ、参加者が親近感を持ち、自分事として捉えられるように工夫を行った。36人が参加した。また若者のアイデアによってユーチューブでの生配信も行った。また、参加しやすかつながりやすい場づくりを行うため、ボードゲームを準備し体験できるようにしたところ、効果を体感した。

3年目は、2年目に行った「若者×ツナグバ」イベントの定例化によって、月一回ではあるが、若者をサポートできるスタッフがいるセンターづくりを試行した。場所は、三次市内のショッピングセンターとし、若者世代の集まりやすい場づくりを工夫した。また若者スタッフを募集し、若者が自分事として若者の感覚で居場所づくりをすすめられるようにした。イベント企画実施においては、若者スタッフが主となるよう、サポートを行った。毎回5～6名の若者スタッフに参加し、毎回試行錯誤しながら楽しんでイベントを企画実施する姿が見られた。

また、このイベントがきっかけで、ツナガリが生まれていく姿を目の当たりにし、こういった場が社会に広がっていく必要性を感じた。市民に見えるところで若者が中心となって月一回のイベントを開催することについても意味を感じている。

社会に希望を見出すきっかけは、自分の中にももっているときは、見いだせなくなっている。そのうち絶望してしまう。SNSでは解決できない世界があることに気づき、人との出会い、ツナガリをサポートできる場の必要性を感じた若者が、今、コミュニティハウスやゲストハウス、シェアハウス、私設図書館などの場をひらいていっている。その流れの中にわたしたちの活動もある。わたしたち自身もまた、自分たちだけの活動にももっていると、見るべきものが見えなくなってしまう。多様性があり、志をもった市民や団体、また轡田先生をはじめとした大学等研究機関とのつながりの力を得ながら、今後もここが「若者×ツナグバ」でありつづけられるよう活動していこうと考えている。

苦勞したこと

若者×ツナグバの理念共有

活動を終えての感想・意見等

実施に伴う効果に記入

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
雑収入	7
合計	507

支出の部

支出についてはマツダ財団負担金からの充当額を右端に記載ください。

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	講師謝礼 (含交通費)	講師6,000円×3名×12回	180	180
	アルバイト代 (含交通費)	6,800円×10日間	68	68
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)	チラシ印刷代	18	18
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)	会場無料提供 ボードゲームレンタル無料提供		
	その他	イベント消耗品費12回分	78	71
	小計			
備品費		ポータブルアンプスピーカー	159	159
出版費用 (会議費、通信費等)		チラシ郵送料	4	4
その他経費				
合計			507	500

2019 年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名 : NPO法人 三次おやこ劇場

報告者 : 花本 識吏

活動の内容

1. 古民家を DIY でリフォーム

実施期間／6 月企画～12 月完成

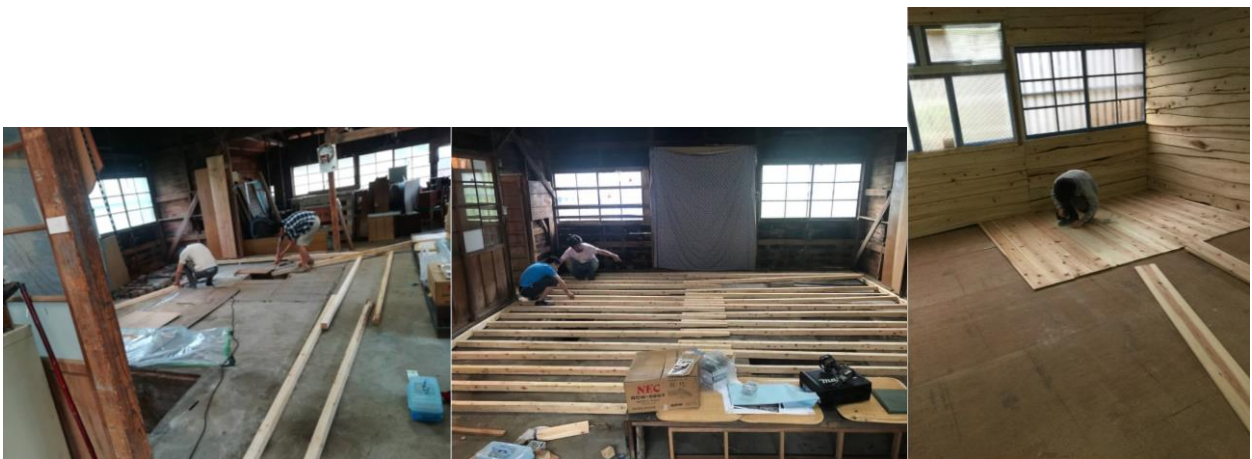
参加人数／若者とスタッフ延べ 69 名(1 回当たり 3～4 名)

- ① 6/25 ワカツナ活動について 若者と日程などを検討 若者と、スタッフ 5 人
- ② 7/17 居場所づくり 奥の部屋の片付け 4 人



作業前風景

- ③ 7/27 床基礎材設置 3 人
- ④ 8/06 座板打ち付け 3 人



⑤ 8/17 床材他製材並びに搬入 4人

⑥ 8/20 壁材打ち付け 4人

⑦ 8/21 壁材打ち付け 5人



⑧ 9/01 材の製材作業 2人

⑨ 9/04 壁の色塗り 5人

⑩ 9/18 床材の打ち付け 2人 壁の色塗り 2人 電気工事 2人



⑪ 9/25 電気工事 3人 志楽蝶の石田さんが手伝いに来てくれました。



⑫ 11/20 窓の色塗り 4人

⑬ 11/27 カウンター設置作業 3人



- ⑭ 12/01 製材作業 2人
- ⑮ 12/04 壁の打ち付け 2人
- ⑯ 12/06 防災材の打ち付け 2人
- ⑰ 12/10 防災材の打ち付け 2人
- ⑱ 12/17 カウンターの上部設置作業 2人
- ⑲ 12/18 机等の設置 5人 電気設備設置 3人
- ⑳ 1/07 手前の部屋の片付け 5人
- ㉑ 2/04 会場整理 2人

2.クリスマス会の開催

日時／2019年12月22日

参加人数／参加者 13名 スタッフ 6名



3.もちつき大会

日時／2020年1月18日

参加人数／参加者 40名 スタッフ 6名



2/29 ひな祭り コロナウイルスの影響で自粛要請のため、中止

良かった点および課題、今後の方向性

良かった点

若者たちの居たい場所として、色々と話をしながら進めていくことが出来た。

壁の色や窓の色なども、一緒に買いに行き、少しずつ出来ることをそれぞれが、話して進められた。

また、FBなどに様子をアップすることで、夏休みの時間を使って大学生がきて、手伝ってくれた。

大きくなって触れ合うことが少なくなった会員さんも、興味を持って手伝いなどしてくれた。

近所の方も、部屋の出来あがりを楽しみにされていて、イベントで子どもたちが生き生きとピザづくりをしている姿を微笑ましく、見てもらい、喜んでいただいた。

色々な世代の交流会につなげることが出来た。

また、スクリーンを使っのゲーム会を子どもたち中心に行ったが、みんなが楽しげに出来て良かった。

課題

中心になってくれた高校生が卒業したため、今後、中学生を中心にどのように進めていけば良いかを検討する。

トイレや屋根の修理など、まだ、修繕課題が残っている。

外回りの整理なども、まだ、残っている。

今後の方向性

若者中心にしたゲーム大会を定期的に行う。

音楽教室などの音楽イベントを行う。

好評だった糸鋸教室や木育工作の幅を広げて、夏休みなどに行う。

3年間を振り返って

良かったこと

子どもたちが卒業などで、巣立っていき集まれるメンバーは毎年変わり、作業始めはゆっくりとすすみ、大人と子どもの意思の疎通に少し時間がかかることもありましたが、自然と仲良くなりました。

様々な立場の子どもたちや、大人が関わることで、方向性もあっちこっちとしながらでしたが、なんとか居場所としてのカタチになりました。

開催したイベント(クリスマスともちつき)で地域の方が参加されて、子どもたちの作ったピザは大好評でした。

次はいつピザを焼くのか楽しみにされています。

現在の場所は、周りに年配の方が多く若者は少ないけれど、支援センターとしてのこの場所に来られる小さな子どもさんを連れた親子との間で、中高生が色々と考えて活動して、世代を超えた場所づくりになりました。

苦労したこと

当初予定の場所で進んでいたピザ釜や居場所、途中から突然の移動、引っ越し先の家の修繕と大変なことが多くありました(まだ、出来てない所もある)。環境が変わり、設計変更など対応が大変でした。

危なくない様に、また、小学生や中学生、女の子等の出来ること等を考えながら、作業手順を決めて行きました。

活動を終えての感想・意見等

場所の変更に対してや、家の修繕など、大変なことが起きたことで、大人が協力して乗り切る姿を見てもらえました。

あきらめずに進めることの大切さが、子どもたちにも伝わったかなと思います。

また、子どもたちのやりたいゲーム大会に向けてどのように進めていけるかは、まだ、不安もありますが、テレビゲームを通して触れ合えるコミュニケーション方法もある、と大人が理解し見守れると良いと思います。

家に籠っていた青年が、ほぼ全部の作業を行ってくれました。弟に色々教えながら、考えて作業をしてくれる様になり、頼もしく成長した姿もあり、卒業した子どもたちが今後、里帰りの時に遊びに来られる場所に、進めていきたいと思います。

また、近所の人たちが一緒に、遊べる空間に仕上がっていけば良いと思います。

当初予定のピザ釜を中心にしたカフェの運営については、新しい場所の立地条件などもあり、断念し、季節に合わせたイベントとして開催していくことにしました。

三年間、マツダ財団さんには支援していただきありがとうございました。

本当に良い活動になりました。

もう少し、マツダ財団の手助けが続くとよりよい空間づくりになると思いますので、これからもよろしくお願ひします。

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
参加費	40
合計	540

⑥⑨⑰

支出の部

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	講師謝礼 (含交通費)	大工 田淵×3 ⑤⑧⑱ 電気 綿岡×2 ⑩⑪ ピザ 西平×1 2 20,000× 6	120	120
	アルバイト代 (含交通費)	作業手伝い 40人 2,000×40 1, 2, 3、	80	80
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)			
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)			
	その他	作業中弁当・イベント(クリスマス・餅つき)材料 1, 2, 3 保険代 2, 3	40 7	7
	小計		247	207
備品費	木材等 1, 2, 3		269	269
出版費用 (会議費、通信費等)	チラシ配送料など 2, 3		8	8
その他経費	灯油代		16	16
合計			540	500

2019年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名 : 府中町地域活動青年団体 志楽蝶

報告者 : 石田 一真

活動の内容

■府中町で行われる行事への参加、または主催

① 府中町サミット (2019/5/29)

・府中南交流センター ・町内活動団体ミーティング

→ 府中町で活動する様々な分野の団体を集め、今後府中町で何ができるかをテーマに、顔合わせと意見交換会を行った。今後も定期的に行い、府中町を盛り上げるためのミーティングを行う。

② 府中中学校での講義 (2019/8/27)

・府中中学校 ・ヒーローショーの講義

→ ツバキマンのヒーローショーやメンバー個人の舞台演出のノウハウを受け、府中中学校から舞台演出の講義の依頼があった。府中中学校主催のイベントにおいて行うオリジナルヒーローショーの舞台演出を行った。数日にわたり行った講義では、殺陣の指導や、セリフを含めた台本、構成などを行った。

③「府中音楽フェスティバル」への参加 (2019/9/29)

・府中南公民館 ・町内行事の支援

→ 毎年行われている音楽イベントの運営スタッフとして参加。志楽蝶の参加は今回で5度目となる。今回はこれまでと違い、実行委員会のメンバーとして参加。メンバーの6名が参加し、会場設営や音響照明スタッフや、受付員等の業務を行った。過去に志楽蝶が製作したポスターが今年のものにも用いられている。

④「ヒューマンフェスタ 2019」への参加 (2019/12/1)

・くすのきプラザ ・町内行事の支援

→ 毎年人権をテーマに行われるイベントにアシストスタッフとして参加。ビデオ上映スタッフや、ちびっ子コーナーのスタッフを行った。また、志楽蝶の団体 PR ブースも設けて頂き、団体説明や一般の府中町民に向け、認知向上の為に広報活動を行った。ここではツバキマンも参加し、練り歩きや志楽蝶イメージキャラクターとしての広報活動も行った。



⑤「ハッピーフェスタ 2019」への参加 (2019/12/15)

・児童センターハッピーズ ・写真館運営

→ 児童センターハッピーズ主催のイベントで「親子写真館」を運営した。メンバー個人の撮影技術を元に親子を対象にした写真撮影スポットを開設した。このイベントは中高生のボランティア活動促進というテーマもあり、大人主体の運営ではなく、このイベントの為に集まった中高生ボランティア主体のイベント運営を行った。撮影や撮影に至るまでのお客さんとの接し方やブースを運営するに至るまでを中高生と一緒に考え、運営した。



⑥ くすのきプラザ「成人式」への参加 (2020/1/13)

・くすのきプラザ ・音響照明スタッフ

→ 毎年くすのきプラザで行われている成人式の音響・照明スタッフとして参加。こちらも参加から5年目となった。過去の成人式実行委員会の参加経験を生かし、技術スタッフのみならず、舞台監督としても役割を果たす。

■府中戦士ツバキマン (1)

①「つばき祭り」への出演 (2019/10/26)

・空城山公園 ・虐待未然防止キャラクターとして出演

→ 府中町児童福祉課が行なった虐待未然防止の PR キャラクターとして出演。府中町行政からの出演依頼は昨年度から始まり、3年連続3度目の依頼となった。今後も府中町からの出演依頼が増えることが期待される。



②「ヒューマンフェスタ」への参加 (2019/12/1)

・くすのきプラザ ・会場内練り歩き、広報活動

→ 前述

③「広報ふちゅう」での特別特集記事掲載 (2019/12/1)

府中町で活動するキャラクターとして、府中町の広報誌「広報ふちゅう」の巻末特集が組まれた。



子どもの笑顔を守る正義のヒーロー
町の元気や平和を守るために必要なものは、子どもたちの笑顔だ。「自分だけが良ければいい。」そういった利己主義がはびこりやすい、現代を生きる子どもたちがみんな熱中できるヒーローになりたい。そして活躍する姿を通じて、子どもたちに夢や希望

テーマソングに乗って、つばき祭りに颯爽と現れた「ツバキマン」。登場すると、会場は子どもたちの歓声に包まれました。そんなツバキマンに、活動への思いをインタビューしました。

ふちゅうの宝
く今月のキラリ人々
みいつけた!
番外編



子どもも大人も笑顔に!

府中戦士ツバキマン

を与えたい。そんな思いで活動している。

地域に寄り添うヒーローに

子どもたちの笑顔を守るには、みんなが少しずつ寛大な心を持つことが重要だ。そのために、みんなの心にはびこる「傲慢な心」から生まれる怪人「ゴーマン」と戦っている。また、私が目指すヒーローは、明るい府中町に貢献

するヒーローだ。昨年の豪雨災害の際は、現地の状況を、自身のSNSで拡散するとともに、復旧作業も実際に行った。これからも困っている人をそっと手助けする「地域に寄り添うヒーロー」でありたいと思っている。町の未来をより明るくするために、みんなの力を貸してほしい。

(取材/まち記者 石田)



— 府中戦士ツバキマン —
【身長】175cm 【体重】70kg
【必殺技】
ツバキ・サテライトハリケーン

府中町を盛り上げたいと、児童センターパンピーズを拠点に活動していた卒業生が立ち上げた、府中町地域活動青年団体「志楽蝶」が取り組む活動。イベントへの出演依頼・相談は、志楽蝶 [info@shirakucho.net] まで。

子どもたちの笑顔を守るため、つばき祭りのステージで児童虐待防止をPRするツバキマン。

④ 紙屋町シャレオ「安芸地区自慢大会」への参加 (2020/1/18)

・紙屋町シャレオ・地域PR活動

→ 紙屋町シャレオにおいて、安芸地区5区町が集結して、街のPRイベントを行った。府中町からの出演依頼で、PRキャラクターとして抜擢された。



⑤ グッズ展開 (2020)

昨年度で「ブランディング向上」の目的として、グッズ展開を行った。ツバキマンを含め志楽蝶の認知向上に向けて、より本格的なグッズを製作した。グッズ展開では「オリジナルのグッズがあるんだ」「本格的な団体だ」などと一般の町民に対して認知していただく為に感覚的にわかりやすく、意識しやすい広報媒体として大きな貢献を果たした。

・缶バッジ・ラバーストラップ・楽曲配信



■若者の居場所づくり (4)

① メンバー内オリエンテーション (2019/8/13)

・岡山県・コミュニケーション向上

→ メンバー内での交流を深める為に計画されたイベント。メンバー旅行を行った。居場所づくりとして、志楽蝶 BASE のような場所の意味合いが強い居場所ではなく、メンバーとの交流を深めることにもコミュニティーをより強いものにするのもひとつの居場所作りと考えた。

② クリスマス会 (2019/12/27)

・志楽蝶 BASE・居場所づくり

→ メンバー内での交流を深める為に計画されたイベント。

■団体としての自主活動 (2)(3)

①ブランディングの向上

昨年度で課題から「ブランディング向上」の目的として、ブログ開設・広報活動・グッズ展開を行ってきた。前述にあるように、SNS を使った広報活動は効果的で、ツバキマンを含め志楽蝶の認知向上に貢献した。また、グッズ展開では「オリジナルのグッズがあるんだ」「本格的な団体だ」などと一般の町民に対して認知していただく為に感覚的にわかりやすく、意識しやすい広報媒体として大きな貢献を果たした。

良かった点および課題、今後の方向性

■府中町で行われる行事への参加、または主催

府中町での活動において、行政との連携を大切に行ってきた甲斐があり、今年度は非常に多くのお声かけを行政よりいただいた。しかし、現状は志楽蝶メンバーが多忙になってきた事もあり、活動の規模縮小も感じた。今後の課題としては、メンバーを増やす事や、活動に参加しやすい環境を構築していく必要がある。また、府中町行政に「府中町の為に何かイベントに参加することはできないか」といったようなお声かけをするも、任意団体が故、なかなか内部に参加することは難しいといった返答が返ってきた。また、府中町行政は府中町におけるイベント活動の規模拡大に力を入れていく方針は無く、そこにコストをかけたくないような印象も感じた。そこで、我々の課題としては、行政外で規模を拡大し、実績を更につけた上で、行政側から依頼が来るような構図になるまで、努力することとした。

■府中戦士ツバキマン

メディア露出が少なかったものの、町民の身近なヒーローということで、認知され始めた。SNS の更新も要因の一つではあるが、大衆の場での練り歩きやイベントのステージ出演といったヒーローショー以外の出演の数が多かったことで、認知度が上がった年となった。イベントに出演することにより、以前より町民から声をかけていただく事が多くなった。今後もステージ発表がないイベントにも積極的に出演していき、町民への露出を増やしていきたい。

■若者の居場所づくり

志楽蝶 BASE の利用数は減少傾向にある。一般的な NPO 団体とは違い、仕事や勉強の合間に活動を行う団体であり、仕事や勉強に支障が出ない無理ない程度に行うというスタンスの元で活動している為、メンバー個人が多忙になった事が主な原因である。昨年の報告の通り、「帰ってくる場所」「いつでも帰ってこられる場所」という場所を設けることが、今後に生きるのではないかという想いの元、環境保全に努める。

現状の活性化も勿論大事なことを考えている。現在募集している三期生の拡充を行い、志楽蝶 BASE の利用者(メンバー)の分母を増やし、来場率をあげ、より意味ある場所にしていきたい。

また、現在は会費を基にした BASE 運用になっているが、志楽蝶から派生した合同会社 Team IshiHara の支援を軸に、会費での運用のかたちから、Team IshiHara 運用のかたちに変更していき、府中町への移転も視野に入れている。

3年間を振り返って

実施に伴う効果

任意団体として、資金不足は大きな課題でした。団体が持つ「夢」や「志」を叶えるには、多少なりとも資金が必要で、これまでの活動ではあまり大きな活動ができていませんでした。そんな中、志楽蝶 BASE をはじめとする大きなプロジェクトを始動させるにあたり、大変役立てさせていただきました。志楽蝶 BASE では、このツナグバでの他 2 団体との情報共有や、先生方のアドバイスを受け、そして BASE 運用への初期投資に大きく貢献していただきました。これまで報告をしてきた通り、この志楽蝶 BASE がないと生まれなかったモノや企画、団体の価値を見出す事ができました。また、ツバキマンの活動においても我々だけの資金ではなし得なかった領域まで達する事ができました。志楽蝶という団体を大きくしていただいた面でも、マツダ財団という大きな看板や資金面でも大きな効果がありました。団体が始まって早8年となりますが、この3年間の飛躍というものは絶大なもので、団体としての形が大きく変わった3年間になりました。

苦労したこと

新しいことを行うということは非常に労力がかかることだと実感しました。これまでは楽しいと思えることを、継ぎ足し継ぎ足しで大きくしていきました。しかし、初期投資をしていただけという状態になってからは、団体の「夢」を叶えるべく、これまでの「楽しいと思えること」以上の土台づくりが必要だという事がわかりました。もちろん全て楽しくこなしてきましたが、自然発生的に生まれたものでなく、大きなプロジェクトを始動することはこれまで体感した物に比べ、非常に労力がかかることでいっぱいでした。また、団体が大きくなっていくにつれて、これまでとは勝手が違う事も多々おきました。相手にする団体や人、団体内の維持、発展も含め、常に新たな課題に直面しているような感覚でした。

活動を終えての感想・意見等

非常に楽しい3年間でした。我々の活動を真摯に応援していただき、見守っていただける方々が身近にいる安心感はとても勇気付けられました。そして、向上心も非常に上がりました。今までは、我々のみで行ってきた活動も、視野が広がり、より一層新しい活動をする事ができました。法人ではなく、任意団体という事もあり、仕事として活動ができない分、時間と労力に苦戦する事もありましたが、それも団体としていい勉強をさせていただきました。また、3団体が合同していくという面は非常にいいシステムだったなあと感じました。ただ資金を頂いて、ただご報告するというものでは成長しえなかった事が沢山あつと実感しております。いい刺激になりました。ありがとうございました。

収支結果報告

(金額単位:千円)

収入の部

マツダ財団支援金	500
イベント謝金	150
会費	852
合計	1,502

支出の部

	費用項目	内訳	金額	負担金充当
行事・催事費用	講師謝礼 (含交通費)			
	アルバイト代 (含交通費)			
	印刷・設営費 (ポスター、チラシ、看板等)	・各種リーフレット・名刺・ネームカード	41	41
	レンタル・リース料 (会場、備品、バス等)			
	その他	(1)ツバキマン備品 (1)ツバキマン運営費 (1)ツバキマングッズ制作費	132	80
	小計		173	121
備品費	(3)撮影機材費 (4)事務所備品費 (3)データ維持費 (4)事務所資材費	82 123 30 150	77 122 30 150	
出版費用 (会議費、通信費等)				
その他経費	(4)BASE 運営費	852	0	
合計		1,410	500	

若者ツナグバ 3年間の活動実績

青字が主な成果

	2017年度 (1年目)	2018年度 (2年目)	2019年度 (3年目)
ほしはら山のがつこう	<p>■大人の林間学校</p> <p>第1回 十輝企画のアイスブレイク、料理対決 (6/24-25)</p> <p>第2回 たき火を囲んだ語り (7/15-16)</p> <p>第3回 「かけっこスクール」参加者の親子と一緒に 吾妻山登り (9/23-24)</p> <p>第4回 11/3-4 「さとやまピクニック」 昼：珈琲とマシュマロ屋の出店 夜：おでん屋の出店、焚火交流</p> <p>三次在住の若者が集まらない</p>	<p>1. 企画会議／今後の当事業ビジョンについて 企画会議・アンケートづくり～アンケート集計 全6回</p> <p>2. 三次市行政とのビジョン共有化に向けて 教育委員長(11/19)への意見・要望 市長(12/13)への意見・要望</p> <p>3. 三次市「ツナグバカフェ」イベント開催(2/11) 場所／三次CCプラザ1Fセントラルコート ・トークイベント ・ボードゲーム</p> <p>若者が集える青少年センター開設を市に直談判 ショッピングセンターでのトークイベントを兼ねた カフェイベントに光明を見出す。</p>	<p>1. ツナグバカフェ 日時／毎月第4土曜日 (10回実施) 場所／三次CCプラザ1Fセントラルコート ・フリースペースcafé、ボードゲームの開設 ・テーマクイズの実施</p> <p>2. 森のおもちゃフェスタ内「ボードコーナー」運営 (9/22-23) 若者スタッフ企画運営</p> <p>3. 年越しキャンプ開催 (12/31-1/1) 若者スタッフ企画運営</p> <p>カフェイベントで若者の繋がりが芽生え、 若者スタッフによるイベントを開催</p>
三次おやこ劇場	<p>1. 石窯造り 材料調達 山から粘土、川から石 DIYで基礎作り</p> <p>2. イベント ・もののけ原画展 (9/25-10/1) ・ママジーナ演奏会 (10/4) ・もちつき大会とDASAIYA移転記念 (1/21) ・Live 十輝と語ろう</p> <p>3. その他 ・引っ越し KADOYA ⇒ DASAIYA</p>	<p>1. 石窯造り 1/26完成</p> <p>2. DASAIYA内での日々の活動 ・読み聞かせ、・スイーツ作り ・洋裁教室 ・手仕事 ・みずあそび</p> <p>3. イベント ・「ピアノカの魔術師」設営撤収 (6/8) ・哲学カフェ (6/17、11/11) ・キャンプ (8/4-5) ・おもちゃフェスタ (9/23-24) ・忍者修行 (10/28)</p>	<p>1. 古民家をDIYでリフォーム (12月完成) ・床・壁に板を張り、大型スクリーンの取り付け ・ピザ窯の周りにカウンターを設置</p> <p>2. イベント ・クリスマス会 (9/22) ・もちつき大会 (1/18)</p>
志楽蝶	<p>■府中町で行われる行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童センター「ハッピーズ」オープニングイベント (4/20-21) ・府中音楽フェスティバル (8/20) ・府中町立府中中学校での講義 (9/13) ・鹿籠祭り (10/14) ・つばき祭り (10/21) ・児童センター「ハッピーズ」ハッピーフェスタ (12/9) ・鹿籠神社 正月祭り (12/31-1/1) ・くすのきプラザ 成人式 (1/8) ・椿展 (3/10) ・くすのきプラザ「10周年イベント」 (3/25) <p>■府中戦士ツバキマンによる広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションショーイベント「ゴキウホリック」 (7/17) ・TV番組「武井SOUL」 (9/23) ・安芸津児童センター「子ども祭り」 (10/22) ・NHKラジオ番組「歌自慢」 (12/15) <p>■若者の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志楽蝶BASE OPEN (7/1) ・夏合宿 (8/12-13 江田島) 	<p>■府中町で行われる行事への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府中町災害ボランティア (7/21) ・府中音楽フェスティバル (8/20) ・府中町立府中中学校での講義 (10/9) ・鹿籠祭り (10/20) ・つばき祭り (10/28) ・児童センター「ハッピーズ」ハッピーフェスタ (12/1) ・ヒューマンフェスタ (12/2) ・くすのきプラザ 成人式 (1/14) <p>■府中戦士ツバキマンによる広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式twitterの開設 ・グッズ展開 (8月) <p>■若者の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志楽蝶BASE バーカウンター作り (6月) ・メンバー内オリエンテーション (5/3) 	<p>■府中町で行われる行事への参加、独自企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府中町サミットの企画・開催 (5/29) ・府中音楽フェスティバル企画運営 (9/29) ・府中町立府中中学校での講義 (8/27) ・つばき祭り (10/26) ・ヒューマンフェスタ (12/1) ・ハッピーフェスタ2019 (12/15) ・くすのきプラザ 成人式 (1/13) <p>■府中戦士ツバキマンによる広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広報ふちゅう」での特別特集記事掲載 (12/1) ・紙屋町シャレオ「安芸地区自慢大会」 (1/18) ・グッズ展開 <p>■若者の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志楽蝶BASE運営 ・メンバー内オリエンテーション (8/13 岡山) ・クリスマス会 (12/27)